

[気象と海況]

- 4月16, 17日の表層水温は内湾で14~15℃台、内房は14℃台。
- 植物プランクトンの優占種は全域でスケルトネマ等の小型珪藻であり、漁期末の栄養塩濃度に大きな影響を与える大型珪藻ユーカンピアの発生はごくわずか。
- 窒素は大貫以外で110μg/L以上含まれていたが、リンは船橋を除いて8μg/Lを下回った(表1)。
- 新富津漁協自動観測ブイによる観測値では、3月下旬以降、沖合水の強い波及は見られていない(図1)。

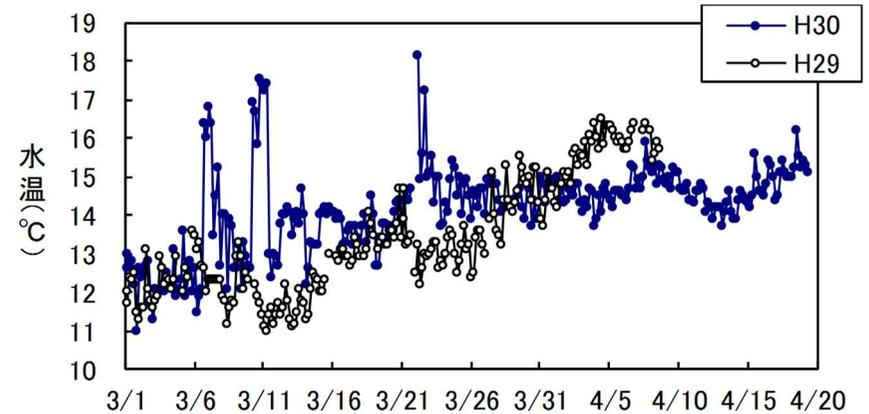


図1 昨年と今年度の漁期水温の比較(新富津観測ブイ)

[今後の留意点]

- ノリの色調は、窒素が基準値よりも低下した場合は数日のうちに急激に退色しますが、リン不足の場合には7日間程度は色調が保たれます。
- そのため、窒素が含まれている海域では急激な色調の退色はなく、まだ売れる海苔が生産できると思われます。
- 30年度ノリ漁期の終漁も間近に迫っていますが、安全操業に留意していただき、ラストスパートをかけてください。

表1 水質観測結果(4/16, 17)

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	14.1	31.2	8.31	3.8	432	13
盤洲Cブイ	15.6	31.5	8.38	4.0	312	1
盤洲Bブイ	14.8	31.7	8.43	4.0	298	0
盤洲Aブイ	15.3	32.2	8.35	4.8	277	2
富津ベタ	14.0	32.4	8.26	4.2	299	5
2海ほ下	14.2	32.7	8.27	4.8	233	0
大貫沖	14.8	33.3	8.32	4.2	49	0

*溶存無機態窒素(μg/l)、**リン酸態リン(μg/l)

※高色調のノリの生産に必要なレベル 窒素110 リン8

ノリの色調の保持や健全な生育に必要なレベル 窒素90 リン5

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードしてご覧ください。